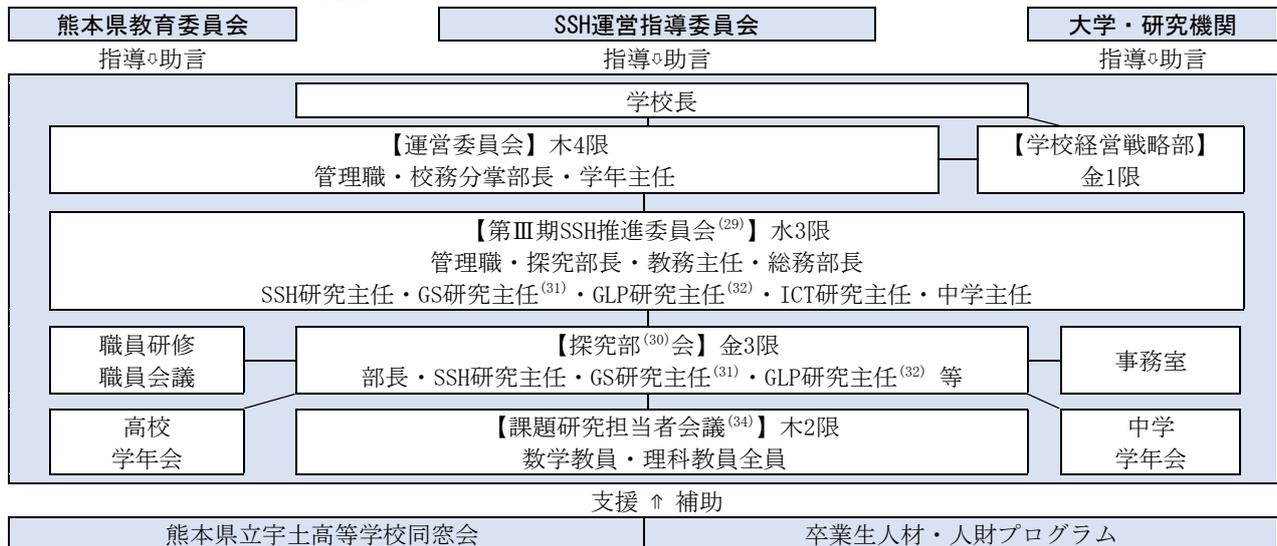


第6節 校内におけるSSHの組織的推進体制

①学校全体の校務分掌との関連を含めた組織図



②組織的推進体制の工夫と成果

今年度の成果は、第Ⅲ期 SSH 研究推進委員会⁽²⁹⁾では SSH 研究開発の方向性の議論を、探究部⁽³⁰⁾会では SSH 事業推進の連絡調整を、課題研究担当者会議⁽³⁴⁾では課題研究に関する情報共有と、各会議の役割を明確にした推進体制ができたことである。探究部長が総括する探究部⁽³⁰⁾会は、SSH 研究主任が SSH 主対象生徒への事業、GS 研究主任⁽³¹⁾が SSH 主対象以外生徒への事業、GLP 研究主任⁽³²⁾が U-CUBE⁽²³⁾、GLP⁽²²⁾事業、ICT 研究主任が 1 人 1 台端末事業を推進するにあたって、高校・中学の学年主任と連絡調整を図る会議として、週時程で金曜 3 限に実施をした。第Ⅲ期 SSH 推進委員会⁽²⁹⁾では、各校務分掌の代表の視点から SSH 事業の方向性を検討する場として、研究開発の成果や課題、今後の方向性について週時程で水曜 3 限に実施をした。さらに、今年度は学校経営戦略部を設置し、学校長のリーダーシップのもと学校の現状における成果や課題を顕在化させ、学校経営の戦略を練る会議を週時程で金曜 1 限に設定した。課題研究担当者会議⁽³⁴⁾は、SSH 主対象生徒が取り組む課題研究の指導にあたる数学、理科の教員が情報交換する会議であり、週時程で木曜 2 限に実施をした。

③SSH担当以外の教師の理解や協力を得るために行った取組、研究開発計画の推進管理のために行った取組

SSH 推進に関わる部署等の学校組織上の位置付けや具体的な役割分担

SSH 研究開発計画のテーマⅠ「理数教育と探究の「問い」を創る授業⁽⁶⁾」について、探究の「問い」を創る授業⁽⁶⁾に関する職員研修や7月、2月の公開授業、ポスターセッション形式の授業研究会、(テーマⅠ「理数教育と探究の問い」の該当頁参照)を行うことで、様々な教科が探究の「問い」の設定やシラバス開発・評価研究に取組み、教科横断型授業の視点や気づきを促す機会を充実させることができています。

SSH 研究開発計画のテーマⅡ「教科との関わりを重視した探究活動」について、ロジックリサーチ⁽¹²⁾における全職員 OJT (On the Job Training) での指導力を向上する機会の設定、GS 課題研究⁽³¹⁾における指導体制の構築、生徒とともにルーブリック作成ワークショップに参加する機会の設定など研修の充実を図ることができています。

SSH 研究開発計画のテーマⅢ「Well-BeingⅠ・Ⅱ⁽²⁶⁾」について、

研究開発計画の推進管理のために行った取組では、共有ファイル(カレンダー)に業務(内容・時期・進捗状況)を記入し、共有することによって、推進管理を図ることができた。

④運営指導委員会の体制

(1) 令和5年度の運営指導委員会のタイムスケジュール

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内容	委員依頼公文書 研究開発実施報告書				日程調整	第1回 運営指導 委員会	議事録 確認			日程調整	第2回 運営指導 委員会	議事録 確認

(2) 令和5年度の運営指導委員会の委員

氏名	所属	委員歴
松添 直隆	熊本県立大学環境共生学部 教授 (委員長)	第1期第1年次 (H25) ~ 現在 11年目
元松 茂樹	宇土市長	第1期第1年次 (H25) ~ 現在 11年目
斉藤 貴志	名古屋市立大学大学院医学研究科 教授	第2期第1年次 (H30) ~ 現在 6年目
齊藤 弘順	崇城大学大学院工学研究科 教授	第2期第5年次 (R4) ~ 現在 2年目
加藤敬一郎	宇土市役所経済部長	第2期第5年次 (R4) ~ 現在 2年目
城本 啓介	熊本大学大学院先端科学研究部 教授	第3期第1年次 (R5) ~ 現在 1年目
岩間 世界	熊本学園大学商学部商学科 准教授	第3期第1年次 (R5) ~ 現在 1年目
水野 恵介	熊本保健科学大学 経営企画室長	第3期第1年次 (R5) ~ 現在 1年目

(3) 運営指導委員会の本校出席職員

校長, 高校副校長, 中学副校長, 教頭, 総務部長, 教務主任, 中学代表, 探究部長, 探究部副部長, SSH 研究主任, GLP 研究主任, GS 研究主任, 実習教師